

事業創造大学院大学 2015 年度第 2 回諮問委員会議事録

1. 日 時 2016 年 2 月 26 日 (金) 14:30 から 16:30 まで
2. 会 場 事業創造大学院大学 5 階会議室
3. 出欠状況

《出席》

[委員長]

青井 倫一 明治大学グローバル・ビジネス研究科 研究科長

[委員]

五十嵐 典明 亀田製菓株式会社 執行役員総務部長

熊倉 啓一 株式会社テレビ新潟放送網 専務取締役

山本 太郎 株式会社ハードオフコーポレーション 常務取締役

(代理出席：前田 淳 株式会社エコモード 店舗支援課課長)

吉田 至夫 株式会社新潟クボタ 代表取締役

[大学]

仙石 正和 事業創造大学院大学 学長

沼田 秀穂 事業創造大学院大学 副学長・研究科長

富山 栄子 事業創造大学院大学 副学長

丸山 一芳 事業創造大学院大学 准教授

《欠席》

[委員]

植田 拓郎 新潟県庁総務管理部長

大森 映治 三井住友銀行 執行役員

高橋 建造 新潟市役所地域・魅力創造部長

早川 博 株式会社コメリ 取締役執行役員

《陪席者》

五月女教授、岸田准教授、鈴木講師、佐久間事務局長、

江川事務局次長、松山 IR 室長、吉田教務課長、高野教務課員

4. 議 事

1. 開会
2. 2015 年度第 2 回議事録の確認
3. 報告事項と質疑応答

(1) 国際交流実施報告

- (2) 演習活動の報告
- (3) 新潟地域活性化研究所活動の報告
- (4) 経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業報告
- (5) COC+事業報告
- (6) 経営系専門職大学院認証評価（委員会案）報告

4. その他

5. 閉会

<配布資料>

資料0 議事次第

資料1 委員名簿

資料2 席次表

資料3 第1回諮問委員会議事録

資料4 国際交流実施報告（ハノイビジネスマッチング、亀田製菓様共同研究、留学生ボランティア出張講義制度の導入）

資料5 演習活動の報告

資料6 新潟地域活性化研究所活動報告

資料7 経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業報告（全体、WG活動報告）

資料8 COC+事業報告（全体報告、インドネシア、カンボジア調査、FD研修）

資料9 経営系専門職大学院認証評価（委員会案）報告

5. 議事経過

1. 開会

研究科長沼田より配布資料の確認、出席委員の確認を行った。

学長仙石より本委員会の開催趣旨説明と認証評価の結果に関する報告、本学がとっている対応へ忌憚のないご意見を願いたい旨の挨拶があった。

2. 第1回諮問委員会議事録の確認

前回委員会の議事録を確認した。

青井委員長：議事録についてご意見等がある場合は事務局へ連絡願いたい。

3. 報告事項と質疑応答

(1) 国際交流実施報告

副学長富山が3件の国際交流実施概要を報告した。

・ベトナムのハノイ市で2015年9月13日に実施した本学ベトナムOB会と

のビジネスマッチングおよび現地調査の概要報告を行った。

- ・亀田製菓株式会社と本学とのベトナム市場向け製品開発に関するマーケティングの共同研究に関して概要報告を行った。
- ・本学留学生の小中学校への出張ボランティア講義や国際交流活動の概要報告を行った。

青井委員長：国際交流について、特にベトナムとの交流はこの大学の強みであるので、これからも益々積極的に進めていただきたい。

(2) 演習活動の報告

准教授丸山が演習で実施しているイベントや発表会等について概要報告を行った。

青井委員長：今の報告にあったものは、前回および前々回の委員会において、各委員から更なる充実を求めるご意見があったことを受け、大学が検討を行い、実施したものだ。専門職大学院には研究論文という形は求められていないが、博士課程に進むような、特に留学生にはあったほうが良いと判断で進めているのだろう。

丸山：最近では学会研究発表を5件行っており、学生の研究活動も活発化している。

青井委員長：発表することにより、ますます研究を活発化させ、特に事業創造という点にウェットを置いて進めていただきたい。

沼田：半期毎に演習成果の学内発表を公開形式で行っている。従来に比べ半年前倒して実施している。

青井委員長：大学のポリシーも関わってくるが、学外にも発表を公開して、地域を巻き込むことで、地域活性化へ繋げることが出来るのではないか。

沼田：ビジネスプラン・研究成果発表会は外部へ公開して実施している。今後は更に活発化させたい。

(3) 新潟地域活性化研究所活動報告

研究科長沼田が新潟地域活性化研究所の活動について報告を行った。

准教授丸山がビジネスクリエーター研究会で客員研究員が行った発表の概要報告を行った。

青井委員長：地域の活性化となると一つは地域の企業との連携になるが、地域の金融機関も大事になってくる。自治体も個人情報の問題があるが、地域の情報を持っているので、連携も課題になってくる。MOTについて新潟大学が募集を取り止め、長岡技科大学も範囲が限定的であることから、新潟地区でどの大学が今後MOTを担うのか、文科省も関心を持っているようだが。

仙石：バブソンの調査報告やスタンフォード大学を訪問した際にも感じたが、テクノロジーは必要であり、マネジメントだけでは問題があるだろうという認識を持って、将来計画を進めている。

青井委員長：長岡との連携の可能性はあるのか。新潟地域全体の活性化となると、

この大学だけがプレイヤーとして進めるのではなく、新潟大学や長岡技科大学も得手不得手というものがあるのだから、連携してやっていく必要があるだろう。

沼田：本学だけで何もかもという考えはなく、他の大学との連携を進めていきたいと考えているが、科目となると単位の問題などハードルが高いので、まずは課外活動として、新潟地域活性化研究所を主体に、協力していきたいと考えている。

青井委員長：あまり手は広げず、この大学の特長である事業創造を強調する形で進めていくべきだろう。

(4) 経済産業省産学連携サービス経営人材育成事業報告

研究科長沼田が活動内容の報告を行った。

准教授丸山が「教育・カリキュラムワーキンググループ」の活動報告を行った。

(5) COC+事業報告

研究科長沼田がCOC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）における本学の事業報告を行った。

副学長富山がインドネシアならびにカンボジアでの交流協定校との学術交流企画について報告を行った。

(6) 経営系専門職大学院認証評価（委員会案）報告

研究科長沼田が大学基準協会による「経営系専門職大学院認証評価」の結果（委員会案）について報告を行った。

青井委員長：新潟市の農業に対する力の入れ方はどうなのか。

沼田：学生の中には農業特区を研究や事業のテーマにしている者もいるが、まだまだ少ないと感じる。

青井委員長：新潟なりの特長に大学がどう関わっていくか。農業というのは、ビッグデータの管理が最後に大事になってくる。データ勝負だと思う。

委員：近々設立される農業関連大学との連携構想あるのか。

仙石：同大学の卒業生を本学に迎え入れる考えもあるが、食料分野とマネジメントを含んだ経営の要素も取り入れた大学だと聞いている。

4. 閉会

青井委員長：これで第2回諮問委員会を終了する。

以上